

とぐろ

## 登場人物

すみれ(19→21)↓女。言いたいことが言えないし意思の弱い女の子。

陽太(19→21)↓男。すみれの元カレ。

さよ(19→21)↓すみれの親友。大学で知り合ったよき友。

かいと(18→20)↓すみれ達より学年は一つ下。後に陽太の良き友となる。クズ。

玲奈↓かいとのセフレ。

まさと(23)↓すみれの彼氏。

○シーンⅠ 公園夜(1回生冬)

すみれと陽太、公園を歩く

♡人、白い息が出ている

すみれと陽太、♡人でベンチに座る

陽太、すみれにココアを渡す

すみれ、ココアを受け取る

すみれと陽太、無言

すみれ、口を開きかける

すみれ「☒喉がかすれる。言うべき言葉が」

すみれ、口をパクパクさせる

すみれ「☒出てこない」

陽太、すみれを見る

すみれ、口を閉じる

すみれ、押し黙る

陽太、小さくため息をつく

陽太「別れようか、俺たち」

すみれ、口を開きかけてうつむく

すみれ、うなずく

すみれ「☒言わせてしまった」

すみれ、涙目

すみれ「☒付き合ってたヶ月で別れを切り出された」

陽太「それじゃあ」

すみれ、うなづく

すみれ「Z」デートも数回しか行っていない」

陽太、立ち上がる

陽太、歩いていく

すみれ「Z」キスさえもしていない。高校生の方が多分マシな付き合いをしている」

すみれ、うつむく

すみれ、ため息

すみれ「Z」それでも、もう当分、彼以外を好きになれる気がしなかった」

すみれ、泣き始める

すみれ、ココアを握りしめる

すみれ「Z」こういう寒い日に買ってきてくれるココアとか、そういう優しい君がたまらなく好きだ」

○シーン② 大学 教室③ヶ月後(④回生春)

すみれ「I」って振られたんだよね」

さよ「ふうん。でも別れて正解だよ。そいつ全然すみれのこと大事にしてなかったじゃん」

すみれ「うーん。そうなのかなあ。ひっかかるところは多かったのはあるけど」

さよ「そうだよ！夜遅くに女の子と飲み会行くとかいっぱいあったじゃん」

すみれ「Z」でも、それでも」

○回想 シーンI

陽太が買ってきたココア

すみれ、それを握りしめる

○回想戻り 大学 教室

すみれ、うつむく

さよ、微笑む

さよ「ほら、こういう時はさ」

すみれ、さよを見る

すみれ「カラオケ？」

さよ、うなづく

さよ「うんうん」

すみれ、大きなため息をつく。

すみれ「行くかぁ」

さよ「そうと決まったら、行こ！」

すみれ「〇回生分の履修登録した？」

さよ「もうちょっと時間あるしいいの！すみれの方が優先だもん」

すみれ、微笑む

すみれ「そっか」

〇人、小走りで教室を出ていく

○シーン〇〇カラオケ

さよ、歌っている

すみれ、スマホを見る

スマホには何も通知が来ていない

すみれ、ため息をしてスマホを伏せる

スマホの通知

すみれ、急いでスマホを見る

陽太チャット「今何してんの？」

すみれ、スマホを伏せようとする

すみれ、途中で手を止める

すみれ、もう一度スマホを見る

すみれチャット「別に何も」

陽太チャット「えーほんとに？笑」

すみれ、ため息をついてスマホを伏せようとする

さよ、それに気づく

さよ「何してるの？」

すみれ「あ、いや、その」

さよ、曲を止める

さよ、ため息をつく

さよ「スマホ、見えたけどさ、やめといた方がいいよ」

すみれ「あっちが送ってくるからしょうがないじゃん！」

さよ「ブロックしなよ」

すみれ「英語の授業一緒だから一応。気まづくなるの嫌じゃん」

さよ、マイクを置く

さよ「あのね、すみれ。一旦彼のこと切らないと、幸せになれないよ」  
すみれ「でも」

さよ「君を傷つけた人に入れ込んでるすみれを見てたくない」  
すみれ「ごめん」

少し沈黙

さよ「すみれ。優しさで、やったことは相殺なんかされないよ」

さよ、涙目

さよ「あの時君は、たしかにあいつに酷いことをされて傷ついてたのに、なかったことにしないで」

すみれ、ハツとする

すみれ「うん……そうだね」

すみれ、泣き始める

さよ「あー、いや、ごめん言いすぎた」

すみれ「ううん、いいの。辛いけど、その通りだから」

さよ、すみれの背中をさする

さよ「次は、自分のこと大事にしてくれる人を選びなよ」

すみれ「うん」

すみれ「さよの言うことはもっともなのに。分かっているのに。それでも、彼のことを心の底から嫌えない弱い私が大嫌いだ」

すみれのスマホに通知

陽太チャット「今度の飲み会、確か来るよね？」

○シーン↳居酒屋 夜 テーブル

経営学部、新入生歓迎会の看板

すみれ、経営学部自治会のテーブルに座って

いる

さよチャット「気をつけてね。楽しんで」

すみれチャット「ありがとう」

すみれ、スマホを置く

すみれ、ため息をつく

すみれ、お酒をグツと煽る

すみれ、ため息をつく

陽太、すみれのテーブルに来る

陽太「久しぶり」

すみれ、視線を落とす

すみれ「何？」

陽太、微笑む

陽太「会いたかった」

すみれ「あぁ、ダメだ。熱を帯びるのを感じる」

すみれ、陽太を見る

すみれ「私にした決意なんて容易く碎かれてしまう、残酷な笑顔だ」

すみれ、声が震える

すみれ「わ、わたしも」

陽太、パッと顔を明るくする

すみれ「あぁ、好きだなあ」

陽太「ちょっと涼みに行かない？」



すみれ「Z」そんなことを思ってしまう弱い自分が嫌いだ。だから」

すみれ、少し息を吸って吐く

すみれ「うん。いいよ」

### ○シーン5 居酒屋前夜

すみれと陽太、見つめ合う

すみれ「Z」ああ駄目だな。やっぱり好きだ」

陽太、キスをしようとする。

すみれ「Z」どうにも忘れられなかった。でも」

### ○回想 すみれの家夜

陽太のインスタ、陽太と女の子の写真

すみれ、時計を見る

時計は夜の22時30分

すみれ、少し考える

陽太とのLINEをひらく

すみれ「チャット」テスト全然だめだった笑」

チャットは既読スルーされている

すみれ、スマホをベッドに放り投げる

すみれ「Z」不安になりすぎだ。こんなことで」

すみれ、涙目

○回想 カラオケ(シーン3)

さよ「すみれ。優しさで、やったことは相殺なんかされないよ」

さよ「あの時君は、たしかにあいつに酷いことをされて傷ついてたのに、なかったことにしないで」

○回想戻り

すみれ、陽太の目を見る

すみれ「ああの時の辛かった自分を裏切るな！

こんな弱い自分のままは、いやだ!!」

すみれ、思いつきり陽太の唇をかむ

陽太の唇からガリっという鈍い音

陽太の唇から血が出ている

陽太、血を拭う

陽太、ポカンとしてすみれを見る

陽太「……は？」

すみれ「これは、決別だ」

すみれ、涙目で微笑む

すみれ「期待した？」

陽太、立ち尽くす

すみれ、そこから逃げるように場を去る

陽太「なんなんだよ」

陽太、しゃがみこむ

すみれ、泣きながら走っている

すみれ「さよなら」

○シーン 6 BBQ会場 18時(2回生夏)

「4ヶ月後」

経営学部 BBQ とかかれた看板。

すみれ、お肉を頬張っている

陽太、そこへやってくる

陽太「そっち紙皿足りてる?」

すみれ「うん。足りてるよ」

陽太「おっけい」

陽太、別のテーブルへまわる

かいと(18)、ビールを飲んでいる

かいと、すみれの元へやってくる

かいと「あ、すみれさんじゃないすか」

すみれ、かいとを見る

かいと、笑う

かいと「陽太さんと付き合ってたってマジすか?笑」

すみれ、苦笑いをする

すみれ「嘘ではないよ」

かいと「えーおもしろ笑なんで別れたんすか？」

すみれ「いろいろあったのよ。はい」

すみれ、かいとに水をさしだす

すみれ「あなた飲みすぎ。水飲んだ方がいいよ」

かいと、水を受け取る

かいと「あぎーす」

かいと、陽太を見る

かいと「あの人、超淡泊そうすもんねえ」

すみれ「さあね。ほら、それ以上その話すると怒られちゃうから、あっち行きな」

かいと「誰にすか？」

すみれ「彼氏」

かいと「居るんすか!？」

すみれ「悪い？」

かいと「いや、すいません。てっきり」

すみれ「てっきり？」

かいと「……すいません」

すみれ、微笑む

すみれ「前に進まなきゃ変わんないからね」

○シーン 7 BBQ会場 20時半

各々BBQの片付けをしている

すみれ、大きな袋を持って缶を回収している

すみれ、缶を袋に入れる

すみれ「この卓はもう缶ない？」

陽太「あ、ごめん俺のやつ」

すみれ「はいはい」

陽太、すみれの袋に缶を捨てる

陽太「ありがとう」

すみれ「うん」

すみれの携帯に通知

すみれの携帯の裏にはまさたとのプリクラ

すみれ、携帯を確認する

まさとチャット「BQ楽しかった？」

すみれ、携帯を閉じる

すみれ「この卓はもう缶ない？」

陽太「ないと思う」

すみれ「了解。ありがとう」

すみれ、走っていく

陽太、それを見つめる

かいと、陽太に肩を組みに行く

かいと「うえ〜い。未練とかないんすか？」

陽太、微笑む

陽太「ないね」

かいと「おもしろくね〜」

陽太「それでいいんだよ。はい」

陽太、かいとに水をさしだす

かいと「なんすか？」

陽太「お前飲みすぎ、水飲んどけ」

かいと「さっき飲みましたって！」

陽太「足りてねえよ」

かいと、水をしぶしぶ受け取る

かいと「あざーす」

陽太、かいとの肩を組む

陽太「ほら、行くぞ」

かいと「なんで振ったんすか？かわいくなかったんすか？」

陽太「そんな訳ないだろ」

かいと、陽太を見る

陽太、困って考え込む

陽太「かわいいとは思ってるさ、今も。だけど、あの子全然自分の意思言わないからさ」

陽太、ため息をつく

陽太「察するの、しんどくなったんだ」

かいと「ほくん。いろいろあるんすねえ」

陽太「そんなもんさ。今はお互い彼氏彼女いるし、この話は終わりだ」

かいと「え」

陽太「悪いか？」

かいと「いや、すいません。てっきり」

陽太「なんだ」

玲奈(18)、走ってくる

玲奈「かいと！ここに居たの！？先輩に迷惑かけないで！帰るよ！」

かいと「ああ。ごめんごめん。恋バナを少々」

玲奈「あんたのは掃いて捨てるほどあるでしょ」

かいと「まあね〜」

玲奈「ほら、いくよ」

かいと「はいはい」

かいと、陽太に耳打ち

かいと「一回ヤツたくらいでみんな彼女面してくるんすよ。困ったもんすよねえ」

陽太、ため息

陽太「お前な……」

陽太、かいとの胸ぐらを軽く掴む

陽太、逡巡して手を離す

かいと、笑う

かいと「こっわ笑何言おうとしたんすか」

陽太、微笑む

陽太「さあな」

かいと「はいはい」

かいと、玲奈に連れられていく

かいと「おつかれさまです」

陽太「ほどほどにしろよ〜」

陽太、携帯に通知

陽太、携帯を確認する

まなみチャット「今日会える？」

陽太チャット「23時からなら」

まなみチャット「会いたい」

陽太チャット「わかった。また場所教えて」

陽太、携帯をとじる

○シーン 8 BBQ会場 21時

すみれチャット「うん！楽しかった！」

まさとチャット「今から会える？」

すみれ、少し考える

すみれチャット「ごめん。今日は夜遅いし疲れてるから明日でもいいかな？」

まさと、未読スルー

すみれ、ため息

すみれ「帰るか」

陽太チャット「今終わったよ。どこにいる？」

まなみ、未読スルー

陽太、ため息

陽太「くそ」

すみれと陽太、別々の方向へ帰っていく

○シーン 9 大学 英語の授業中



先生「この when は関係詞なので」

陽太、あくびをする

先生「この文じゃなくてここにかかってるんだ。おい、端元、聞いてるか」

陽太、すみれを見る

すみれ、ハッとする

すみれ「すみません」

陽太「Z」こういう時、俺は当たらないタイプで、すみれは当たるタイプだよなあ」

先生「じゃあこの問分かるか？」

すみれ「えーっと、答え、〇ですか？」

先生「正解。ここの接続詞は」

陽太「Z」でも正解するのがすみれだよな」

陽太、ため息

陽太「Z」結局あのあとまなみから連絡なかったなあ。ほーんと我儘だよなあ。俺も会いたかったのに」

陽太のスマホに通知

陽太のロック画面はまなみとのツーショット

まなみ「チャット」ごめんー寝落ちしてた🙇‍♀️」

陽太「Z」だろうと思った」

陽太、ため息

○シーン10 大学 英語の授業終わり

まさと「チャット」俺は会いたかったよ」

すみれ、ため息

すみれ「チャット」ごめんね」

まさと「チャット」本当に俺のことすぎ？」

すみれ「チャット」すぎだよ！ー！ちゃんと！」

さよ、すみれの肩を叩く

さよ「おはよう！すみれ！」

すみれ「さよ！おはよう！！！」

さよ「言ってた占い来週だね。楽しみ」

すみれ「ほんとにね！」

さよ「まさどさんとは順調？」

すみれ「びみよい笑」

さよ「びみよいかあ笑まあそれも含めて占ってもらお」

すみれ「そうだね！！」

○シーンニ 占い屋 放課後

占い師、タロットをめくっている

占い師「出ました」

すみれ「どうですか？」

占い師「あなた、今恋愛しちゃ駄目ですよ」

すみれとさよ、顔を見合わせて笑う

すみれ「え笑」

占い師「来年の夏まではあなたに合わない人しか寄ってきません」

すみれ「長くないですか!？」

占い師「夏までは恋しちゃ駄目ですよ」

さよ「この子、今彼氏いるんですけど……」

占い師「あなた、今付き合ってた素で居れますか？」

すみれ、苦笑い

占い師「まあ来年の秋から冬にかけてはいい恋愛できるかもしれませんね」

すみれ「冬、ですか？」

占い師「ええ」

さよ「まだまだだね」

すみれ「長いなあ……」

占い師「でもね、すみれさん。決断するのに楽をすると、後々痛い目に遭うわよ」

さよ、にやけながらすみれを見る

すみれ「何よお」

さよ「身に染みてる？」

すみれ、笑う

すみれ「そりゃもうめちやくちゃに」

すみれ、伸びをする

すみれ「そうだよねえ。言う通りだ」

○シーン 12 教室 テスト終わり 昼休み

すみれ、伸びをする

すみれ「さよー、テストどうだった？」

さよ「ほーんとむり！諦めてる。なんだかんだいって取るもんなあ、すみれ」

すみれ「それはさよもじゃん」

さよ「そいえばまさどさんとはどうなの？」

すみれ「あー、そのことで聞いて欲しい話があった」

○シーン「3ファミレス テスト終わり 昼休み

すみれとさよ、テーブルに座っている

さよ「ええ！？振った！？」

すみれ、ご飯を頬張る

すみれ「ふおん」

さよ「え、いや、なんというか、急展開すぎるといとか、まさどさんはなんて……？」

すみれ「急すぎる。受け止めきれないって」

さよ「だろうね」

すみれ「だから話してくる」

さよ「大丈夫？丸め込まれない？」

すみれ「上手くできる気はしないけど、練習と思って頑張る。もう決めたの一点張りで通すよ」

さよ「そっか……」

すみれ、微笑む

すみれ「元々私の誕生日までには振ろうと思っていたの」

さよ「すみれの誕生日は6月だからわりとすぐだね」

すみれ「そうそう。好きじゃない人にお金遣わせるのも悪いでしょ？」

さよ「まあその気持ちは分かる」

さよ「その話し合いはいつなの？」

すみれ「今週末」

さよ「ω日後か。すみれ、応援してるよ」

すみれ「うん！ありがとう」

さよ「あ、もうすぐ授業始まる」

すみれ「私たち空きコマだもんね。移動しようか」

∞人、教室を出ていく

かいと、近くの席に座っている

かいと「やくばあの人〜」

かいと、携帯を取り出す

かいとチャット「ようたさくん」

かいとチャット「なんかすみれさん別れたっぽいすよ」

玲奈、かいととのテーブルに来る

玲奈「どうしたの？ニヤニヤして」

かいと「こりやおもしろくなるぞ」

玲奈「その顔、どーせろくなことじゃないんでしょ」

かいと「さあね」

玲奈「ほーんと、いつか痛い目見るよ」

### ○シーン「㊦」大学前(夏休み明け朝∞回生秋)

すみれ「㊦」あーあ、夏休み終わっちゃった。学祭に向けて忙しくなるなあ」

すみれ、歩いている

すみれ、伸びをする

すみれ「はあく」

すみれの靴に血が滲んでいる

すみれ「え」

すみれ、しゃがむ

すみれ、足を確認する

靴擦れで皮が剥けている

すみれ「えー……」

すみれ、ため息

すみれ「さいあく」

陽太、すみれに気づく

陽太「どうしたの、しゃがみこんで」

すみれ「あー、絆創膏持ってない？」

陽太、靴に手を突っ込む

陽太「んーと」

陽太、絆創膏を取り出す

陽太「あるんだなこれが」

すみれ、絆創膏を受け取る

すみれ「女子力高いね」

陽太「だろ……？」

陽太、すみれのスマホの裏に気づく

すみれのスマホの裏から彼氏とのプリクラが

消えている

すみれ「ああ？まさしくん？」

陽太「あ、ごめん」

すみれ、微笑む

すみれ「いや、いいの。別れた」

陽太「そう、だったんだ」

陽太「かいとの言ってたこと、ほんとだったのか」

すみれ「ごめん気まずいよね笑絆創膏ありがとう。じゃあね」

陽太「どういたしまして。じゃあ」

すみれ、去る

陽太「それも全く同じなのかよ」

陽太の携帯にかいとから通知

かいとチャット「今度飲み行きませんか？」

陽太の携帯のロック画面は無地の白

## ○シーン 15 居酒屋 1夜

かいと、ジョッキ片手に酔っている

かいと「ようたさーん」

陽太「お前酒弱いなあ」

かいと「玲奈のことなんすけど」

陽太「ん？」

かいと「この頃変なんすよ」

陽太「どう変なんだよ」

かいと「俺にかまってくれない」

陽太「いーじゃないかそれで。そっちの方が」

かいと「違うんすよ」

陽太「なにが」

かいと「なんか相手の人やばそうなんすよ」

陽太「どうやばいんだよ」

かいと、写真を見せる

玲奈の腕に煙草後

陽太、目を見開く

陽太「いや、これは通報した方がいいだろ」

かいと「その手があったか」

陽太「お前なあ……」

陽太、はっとして立ち上がる

陽太「玲奈ちゃんは誰かに相談してないのか」

かいと「いや、そこまでは」

陽太「そうか……」

陽太、席に座り直す

陽太「なんかすみれが聞いたら乗り込んでいきそうなんだよなあ」

居酒屋のドアがバァンとあく

陽太とかいと、びくっとする、

すみれ、玲奈の手を引いて入ってくる

すみれ、陽太とかいとの前に立つ



すみれ、かいとの右頬をビンタ

玲奈、ギョツとする

すみれ「あんたね！！玲奈ちゃんになって事してくれてんの！！！！！！」

玲奈「あの、」

かいと、頬を抑える

かいと「へ………？」

陽太「あ」

陽太「これ、玲奈ちゃんの腕の跡、かいとの仕事と」

陽太「すみれ、それは」

すみれ「あんたは黙ってて！！！！」

陽太「すみません」

すみれ、肩で息をしている

すみれ「あんた、彼女にこんな酷い仕打ち、ほんとに」

かいと「ん？」

陽太「あ」

玲奈「あの」

すみれ、玲奈の方に振り返る

玲奈「私たち、付き合っていないです」

すみれ「え？」

陽太、顔に手をあてる

すみれ「え？付き合って、え？」

玲奈「ごめんなさい、止められなくて。あと、紛らわしかったですよね」

すみれ「え、そんなに一緒に居て？」

かいと「要はセ」

陽太、かいとの左頬をビンタ

かいと、陽太を見る

かいと「へ……?」

陽太、ため息

陽太「場所、変えようか」

○シーン 16 居酒屋 2 夜

すみれと玲奈の向かいに陽太とかいとが座っている

すみれ、頭を抱えている

すみれ「……ごめん」

玲奈「いえ、あの、お気になさらないで」

かいと「俺の頬は？」

玲奈「あんたは黙ってて」

陽太、声を押し殺して笑っている

すみれ「陽太!!!!」

陽太「いや、ごめ、ふっいやほんとははは」

すみれ、顔を真っ赤にしている

陽太「いやごめんごめん君らしいなと思って」

すみれ「どういう意味よ」

陽太「はやとちりで真っ直ぐなところ」

すみれ「褒めてる? けなしてる?」

かいと「あの、話を」

玲奈、かいとの右頬をビンタ

かいと「今の俺悪くなくない!？」

陽太「まあ、結論を出すよだな。玲奈ちゃんに酷いことをしているのは、かいとじゃないってことだ」

すみれ「じゃあ、それ誰なの？」

玲奈「この頃出会ったんです。年上で、余裕があっというなと思って。でも」

かいと「でも？」

玲奈「元カノのことがまだ忘れられないらしくて」

陽太、顔を背ける

玲奈「元カノとキスしたいとか、平気で私の前ですべて言うんですよ」

すみれ「玲奈ちゃんの前で？」

玲奈「はい」

すみれ「まあ、行動に移してないだけまだましじゃない」

陽太「すみません」

かいと「何が？」

陽太「なんでも？」

玲奈「まあそこまでは別について感じなんですけど、私に元カノを重ね始めたみたいで」

かいと「うわぁ」

玲奈「束縛激しくなってきた、自暴自棄で乱暴に」

すみれ「もう通報した方がいいよ」

玲奈「ただ、あっちも可哀想で」

陽太「ほう」

玲奈「夏休み前に本当に突然振られたらしくて。話をしてももう決めたの一点張りで、多分連絡先もブロックされてるって」

かいとと陽太、すみれを見る

すみれ、顔を背ける

○回想 シーン13 ファミレス テスト終わり 昼休み

すみれとさよ、テーブルに座っている

さよ「ええ！？振った!？」

さよ「え、いや、なんというか、急展開すぎるといふか、まさどさんはなんて……?」

すみれ「急すぎる。受け止めきれないって」

さよ「だろうね」

すみれ「上手くできる気はしないけど、練習と思って頑張る。もう決めたの一点張りで通すよ」

さよ「そっか……」

○回想戻り

陽太「そりゃ可哀想だな」

すみれ「そうね……」

すみれ、まさとのブロックを解除する

メッセージは999件以上

すみれ、まさとのことを再度ブロックする

すみれ、静かに携帯を伏せる

すみれ「あの、玲奈ちゃん」

玲奈「はい」

すみれ「嫌だったらいいんだけど、その人の名前聞いてもいい？」

玲奈「ああ、まさとっていいいます」

陽太「え」

すみれ「歳は？」

玲奈「確か23って」

すみれ、俯く

すみれ「そっか……」

玲奈「どうかしました？」

すみれ「いや」

すみれ「いや、まさか。そんな偶然が」

玲奈の携帯にまさとから着信

玲奈「うわ」

まさとのアイコンを確認する

すみれ「まじじゃん」

かいと「無視でいいんじゃないの？」

玲奈「次会った時何されるか分かんないもん」

かいと「まだ会うつもりでいるのかよ」

玲奈「突然切ったらそれこそ何されるか分かんないじゃん」

陽太「それはそうだが、もう通報でいいだろう」

玲奈、陽太を見る

陽太「これ以上会っても何されるか分からないだろ。早めに手を打たないと」

玲奈「でもどうやって」

居酒屋のドアがあく

→人、一斉に入口を見る

まさとが立っている

玲奈「まさと」

陽太「え」

すみれ「やっぱそうじゃん」

陽太「え？」

まさと、玲奈を見る

まさと「こんな所に居たのか」

まさと、→人のテーブルの所まで来る

まさと「玲奈」

すみれ「まさとさん」

まさと、すみれを見る

まさと「すみれ!?!」

かいと「え？」

すみれ「辞めなよ。そんな人じゃなかったでしょ」

まさと、すみれの手を握ってしゃがみこむ

まさと「会いたかった……」

すみれ「ねえ、話聞いて」

まさと、すみれを見上げる

まさと「帰ろう」

すみれ「え」

まさと、すみれの手を引いて出ていこうとする

まさと「こんなところで出会えたのも運命だろう？」

すみれ、抵抗するがずるずると引きずられていく

すみれ「ちよっ話聞いて」

陽太、まさとの手を掴む

陽太「辞めてください。彼女、嫌がってるでしょ」

まさと「お前なんだ？」

陽太「あなたと同じです。元彼」

まさと「なら同じじゃないな。俺はまだ」

すみれ「ごめん」

まさとと陽太、すみれを見る

すみれ「わたしがちゃんとまさとさんに説明してないのも悪かったから、ちゃんと話すよ」

## ○シーン 17 居酒屋 2

すみれとまさと、別のテーブルで飲んでる

陽太、それを見ながら酒を煽っている

かいと「まあまあ。店の中ですし大丈夫ですって」

玲奈「そういう問題じゃないんじゃない？」

陽太「そうだよ。あーー」

陽太、顔を突っ伏す

陽太「心配で胸がはりさけそう」

かいとと玲奈、顔を見合わせる

かいと「酔ってます?」

玲奈「酔ってますね」

陽太、顔をあげる

陽太の顔は真っ赤

陽太「酔ってない」

かいと、ニヤける

かいと「珍しいっすね」

かいと、コップを差し出す

陽太「なに」

かいと「水っす」

かいと、真顔

かいと「飲みすぎっすよ。陽太さん」

陽太、コップをひっつかみ一気飲み

陽太「っあーっあーっあー」

陽太、かいとを見る

陽太「こんなことあったな」

かいと、笑う

かいと「あの時とは逆ですけどね」

かいと、水のおかわりをつぐ

かいと「ねえ陽太さん」



陽太「なんだ」

かいと、コップを陽太の前に置く

かいと「後悔しないでくださいね。あなたはいいい人だから、苦しんでるの見るのちょっと辛いんですよ」

陽太、コップの水を飲み干す

陽太「お前も、言うようになったな」

陽太、笑う

陽太「でも、今のあいつを舐めない方がいい。ここで丸め込まれるほど甘くはないよ」

すみれとまさと、話している

すみれ、立ち上がる

陽太「ほらな？」

すみれ、こちらへ来る

まさと、着いてくる

すみれ「ごめんね。まさとさん」

すみれ、陽太と腕を組む

すみれ「この人と付き合ってるの」

陽太、吹き出しそうになるのをこらえる

かいと、目を丸くして陽太を見る

陽太、水を飲み込む

陽太「ああ。その通りだよ。俺たち復縁したんだ」

陽太、すみれを抱き寄せる

陽太「だからさ、邪魔しないで貰える？」

まさと、ため息をつく

まさと「そうか。本当だったんだね。ごめん。てっきり嘘ついて適当にかわそうとしてるのかと」

すみれ「そんなことしないよ。今までありがとう」

まさと「うん。それじゃ」

まさと、出ていく

陽太とすみれ、腕を離す

陽太「悪知恵が働くようになったね」

すみれ「あら悪い？暴力を振るってた事実には比べちゃこんなのかなのかわいいもんだよ。あつちがわるいわ」

陽太、笑う

陽太「ほんと最高だ」

かいと、心人を交互に見る

かいと「ええ……」

玲奈「改めて、飲み直しますか？」

すみれ、微笑む

すみれ「それがいいよ」

陽太、微笑む

陽太「そうだな」

かいと「そうすか……」

→人、笑顔でグラスを鳴らす

## ○シーン18 すみれの部屋

すみれ、ベッドに寝転がってスマホを触っている

陽太から通知

陽太「いや、大丈夫。こちらこそ」

すみれ、スマホのチャットアプリをひらく

陽太とのトークルームを開くのを一瞬ためらう

すみれ、スマホを置く

すみれの携帯の通知音

すみれ、おそろおそろ携帯を見る

陽太「映画のチケット余ってるんだ」

すみれ、携帯を取り上げる

陽太「一緒に見に行かない？」

すみれ、少し考える

すみれ、携帯を置く

すみれ、お風呂を沸かしに行く

すみれ、戻ってきて携帯を触る

すみれ、携帯を置く

すみれ、大きなため息

○シーン19 駅前(1ヶ月後)

陽太、ため息をついている

すみれ「陽太！」

陽太、びくっとして振り向く

すみれ、歩いてくる

すみれ「待った？」

陽太「いや？さっき来たところ」

〓人、歩き出す

〓人の後ろ姿

すみれ「ダウトだね」

陽太「バレたか」

すみれ「遅れてごめんなさい」

陽太「許さん」

○シーン 20 居酒屋

陽太とすみれ、グラスを交わす

陽太「カンパイ」

すみれ「かんぱい」

〓人、グラスに口をつける

〓人、目が合って笑う

陽太「まさかこんなことになるなんてなあ」

すみれ「ほんと笑陽太とサシ飲みする日が来るなんてね」

陽太「あの頃の俺らに教えてやりたいな」

すみれ「びっくりするだろうね笑」

〓人、沈黙

陽太とすみれ「あのさ」

〓人、笑う

陽太「どれだけタイミング合うんだよ笑」

すみれ「ほんとにね」

2人、どうぞどうぞをやり合う

2人、笑う

フェードアウト

### ○シーン 21 最初の公園

2人、ベンチに座る

すみれ「私たちはここで一回終わって、それと同時に始まっていたのかもしれない」

すみれの手にココア

回想 タロット占いのシーン

すみれ「彼じゃなくて、君か」

2人、目が合う。

2人、しばらく見つめ合う。

雪が降り始める

すみれ「お互い、目を離さなかった」

2人、見つめあっている

すみれ「まるで、互いに眼力で相手を捕まえているようだった」

すみれ、目が乾いて涙が滲んでいる

すみれ「私たちは目を離さなかった」

陽太、ゆっくりとまばたきをする

陽太、目が乾いて涙が滲んでいる

すみれ、何か言おうと口を動かすが言葉が出ない

すみれ「感情が込み上げては喉から滑り落ちていく」

涙目のすみれ

すみれ「付き合ってる時も頭のどこかに君がいた。やっぱり、君のことを忘れられなかった」

涙目の陽太

すみれ「好きだとか、愛してるとか、そんなちんけな表現じゃ足りない。もっと、ここにふさわしい言葉があるはずで、でも、真っ赤になった頭には考えもつかなかった」

すみれ、涙をこぼす

すみれ「彼は私が何か言おうとしているのを察知して静かに待っていた。もう気持ちを汲んで先回りほしくない」

すみれ、微笑む

すみれ「そうだよな。君も変わったんだ。もう心年経ったもんな。あれから」

すみれ、少し息を吸う。

すみれ「陽太。変わったね」

陽太、微笑む

陽太「そう?」

すみれ「前は、君は気持ちを汲んで私が欲しい言葉を言ってくれたもんね」

陽太「そうだね。でも、それは正解じゃないって気づいたんだ」

すみれ「うん。私もそう思う」

すみれ、涙が溢れ出る

すみれ、大きく息を吸う

すみれ「好きだ。愛してる。幸せでいて欲しい。笑ってて欲しい。君の一举一動が好きだ。心でいる時の柔らかい眼差しが好きだ。熱を帯びた言葉が頭でとぐるりを巻いている」

すみれ、微笑む

すみれ「ああ、言えないな。何も成長してない」

陽太、それを静かに見つめている

陽太、すみれの肩を優しく掴む

すみれ「え」

陽太、すみれにキスしようとする

すみれ、目をつぶる

陽太、思いつきすみれの唇をかむ

すみれの唇からガリっという鈍い音

すみれの唇から血が出ている

すみれ、23歩下がる

すみれ、血を拭う

すみれ、陽太を見る

すみれ「私の顔はどんなだっただろうか。少しふ抜けた、でも、いい笑顔だったと思う」

○回想 シーン5

すみれ、涙目

すみれ「期待した？」

○回想 戻り

陽太、笑っている

陽太「期待した？」

すみれ「やられた!!」

すみれ、声を出して笑う

すみれ「あははは!!」

すみれ、涙を拭う

すみれ「私たち、初めて答えが一致したね」

陽太、涙を拭う

陽太「行動だけはお揃いが多かったのにな」

〇人、少し沈黙

すみれ「お互い、なんとなく自覚していた」

陽太「こういうことは、もうこれで最後だ」

すみれ「そろそろ帰ろうか」

陽太「そうだな」

〇人、立ち上がる

〇人、歩いていく

○シーン 最初の公園の前

すみれ「じゃあね」

陽太、微笑む

陽太「おう、じゃあな」

〇人、別々の方向へ歩き出す

すみれ、立ち止まって振り返る

すみれ「あのさ!!」



陽太、振り返る

すみれ「元気でね!!」

陽太、微笑む

陽太「おう!すみれもな!」

〰人、別々の方向へ歩き出す

〰人、泣き始める

○シーン 23 翌日 大学

真っ赤に腫れた目のすみれ

真っ赤に腫れた目の陽太

さよ「すみれ、大丈夫?」

すみれ「うん。バッチシ」

さよ、すみれの頭をぼんぼんとなでる

さよ「そっか、頑張ったね」

すみれ、微笑む

すみれ「うん、」

○シーン 24 同 大学

かいと、陽太を見る

かいと「陽太さぁん」

陽太「なんだ」

かいと「バチンコで〇万買ったんで飯行きませんか？」

陽太、かいとを見る

陽太「お？お前のおごりか？珍しいな」

かいと「しゃーなしですけどね」

陽太、口パクで「ありがとうな」

かいと「え？なんすか？」

陽太、微笑む

陽太「なんでもない」

すみれと陽太、大学から出て別々に歩いていく。

「とぐろ」